

「あなたからのメッセージ」 ☆☆最優秀作品☆☆

いわき市では、身近なところから男女共同参画について考えていただくきっかけとするために、「イラスト入りのメッセージ」と「写真」を市民の皆さんから募集しました。小学生の部に232点、中学生の部に410点、高校生の部に69点応募があり、一般の部と写真の部を合わせて、合計730点の作品が寄せられました。ここでは、最優秀作品に選ばれた3点をご紹介します。



小学生の部(高坂小6年)
小野 まどか さん

地球上の人々が、平和で安心して生きられるために、私たち一人ひとりがお互いを信頼し、協調し合って国際社会を築いていく考え方が伝わってきます。



中学生の部(植田中1年)
坂内 美波 さん

女も男も、子どもも大人も、だれもがその人らしく個性と能力を發揮し、誇りをもち輝いて生きることのできる社会形成の考え方が伝わってきます。



高校生の部(磐城桜が丘高校2年)
満永 藍 さん

女性は家事・育児、男性は仕事という性別役割概念の心のバリアから開放され、ひとりの人間としての生き方を認め合う共生の考え方が伝わってきます。

選評: 伊藤 行和さん(審査委員長、いわき市男女共同参画推進アドバイザー)

シンポジウム要旨

輝く女と男 ~まちを輝かせる仕掛け人たち~

夢わくわくゆもと市民会議 副会長 小林 千賀子さん

湯本のまちなかマップを作り、まちなかの賑わい創出を大きなテーマとして活動しています。内容として足湯のデザイン、湯本温泉で開かれたフロンパク(温泉博覧会-温泉に泊まってまちの素顔を発見しようとする試み)への参加等です。



私はまちなかの散策を担当しており、一年中アロハに下駄というスタイルで、湯本だけでなくいわき全部を見ていただくこうと力を込めて案内しております。

また、私を「ママ」と呼ぶ仲良しの子どもたち(中学から30歳過ぎまで)が300人位いるのですが、毎朝していた湯本駅前までの掃除をしてくれるようになり、その下の子どもたちが引き継いで育っていく状況があります。そんな子どもたちが湯本の明るい将来を作ってくれと信じています。

内郷地区ふるさと振興協議会 運営委員 三室 千鶴子さん

「ふるしん」には、マップ・石炭(すみ)の道・新川・ホテルの各委員会があり、さまざまな活動をしています。その中で、かつて炭鉱のまちとして栄えたことを語り継ぎたいと「内郷なから物見て歩きマップ」を作成しました。白水阿弥陀堂への観光客を対象に『炭鉱(やま)の案内人』と銘打ち、私もみろく沢炭鉱資料館などを案内しています。



また、若者とまちづくりには何かできないかと思い、いわき総合高校の生徒たちとコンサートを開催したり、高野小学校の子どもたちとゲンジボタルの育成や公開をしたりしています。そして、昨年、小学生たちは文部科学大臣賞をいただきました。

子どもたちの意見を取り入れながらまちづくりに取り組みたいというのが内郷からの提言です。

勿来ひと・まち未来会議 理事 有賀 直美さん

勿来地区(植田・勿来・錦辺り)を知りたいと入会し3年目。会自体の活動は8年目です。



主な事業は、短歌を募集し勿来の関吹風殿での表彰、鮫川河川敷公園内未来ガーデンの草むしり・花火大会・なごそ夏祭りなどです。また親子でまちなかをイルミネーションで飾るトゥインクルウィンター、誰にでもやさしいまちということで、ユニバーサルデザインについて皆で考えるというような、住民と共に楽しめる活動をしています。

そして、私が発行担当しているニュースレターの全戸配布やホームページの作成もしています。

皆が勿来に住んで良かったと思えるまちにし、他の市内地域と連動しているいろいろな事ができるようになれば良いと思います。



ふくしまNPOネットワークセンター 監事 松田 英明さん

地域づくりを、自分がやれるところまでやり誰かにバトンタッチしようという気持ちで続けていけば、いわき市は素晴らしいまちになっていくでしょう。市内の交流を活発にし、それぞれいわき市のいいところを訪ねてほしいと思います。

アンケートより

迷わず行動する勇気もらった/理論より実践ですね/地域の活性化を次の世代に続けてほしい/もっと若者の参加を/声掛け合って輝くまちに!